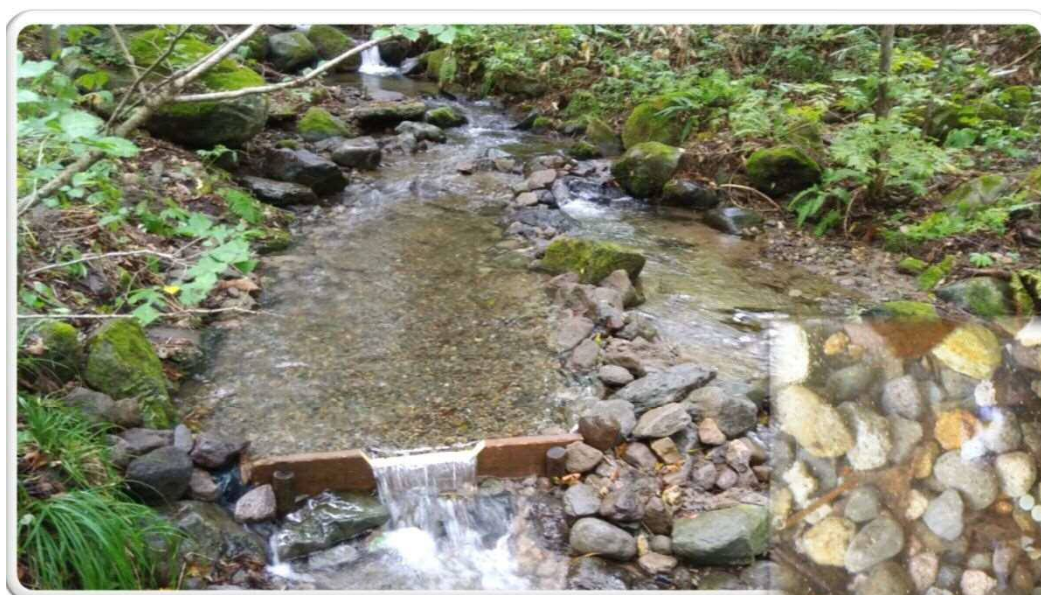


エコアクション21

環境活動レポート

(平成29年度)



人工産卵床の設置

イワナの産卵

【イワナの人工産卵床設置ボランティア（葛川支川にて）】

発行 平成30年10月01日



株式会社 中綱組

目 次

1. 組織の概要 P.	1
2. 環境方針 P.	2
3. 実施体制 P.	3
4. 環境目標とその実績 P.	4
5. 環境活動計画 P.	6
6. 環境活動の取組結果の評価、 次年度の取組内容 P.	7
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 P.	8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果 P.	9
9. その他 P.	10

1. 組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 中 綱 組
代表取締役 羽 賀 義 広

2) 所在地 本社

〒034-0036 青森県十和田市東六番町3番36号
TEL 0176-23-7175
FAX 0176-23-7173
E-mail:nakatuna@cocoa.ocn.ne.jp

自動車整備工場

〒034-0037 青森県十和田市穂並町16番19号

3) 環境管理の責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者 中野渡 昭子 TEL 0176-23-7175
事務局担当 企画課長 広岡 隆雄 FAX 0176-23-7173

4) 事業内容

建設業（土木一式工事、建築一式工事、ほ装工事、水道施設工事）、自動車整備

5) 事業の規模（平成29年度）

活動規模	単位	本 社	自動車整備工場
創 業		昭和10年4月1日	-
資本金	万円	3,000	-
売上高	百万円	723	-
従業員	人	35	内2名
延べ床面積	m ²	159	818
()			

6) 事業年度（環境活動レポートの対象期間）

平成29年度（平成29年7月～平成30年6月まで）

7) 認証・登録の範囲

株式会社中綱組の全組織・全活動

2. 株式会社中綱組 環 境 方 針

【 基本理念 】

人と自然が共生する豊かな自然環境を守るために、継続的な改善活動を通して環境負荷の低減を図り、地球環境にやさしい事業活動を推進する。

【 基本方針 】

企業活動において環境保全のための目標や活動計画を定め、全社一丸となってリデュース、リユース、リサイクルに取り組む。

1. 二酸化炭素の排出削減を推進します。
2. 建設廃棄物（建設副産物）の発生抑制・リサイクルを推進します。
3. 工事現場等における節水及び適切な排水処理の実施に努めます。
4. 環境に配慮した施工方法の推進に努めます。
5. 使用資材の化学物質の適正な管理に努めます。
6. 事務用品、現場資材等のグリーン購入に努めます。
7. 環境に配慮した製品の販売、サービスの提供に努めます。
8. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
9. 環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。

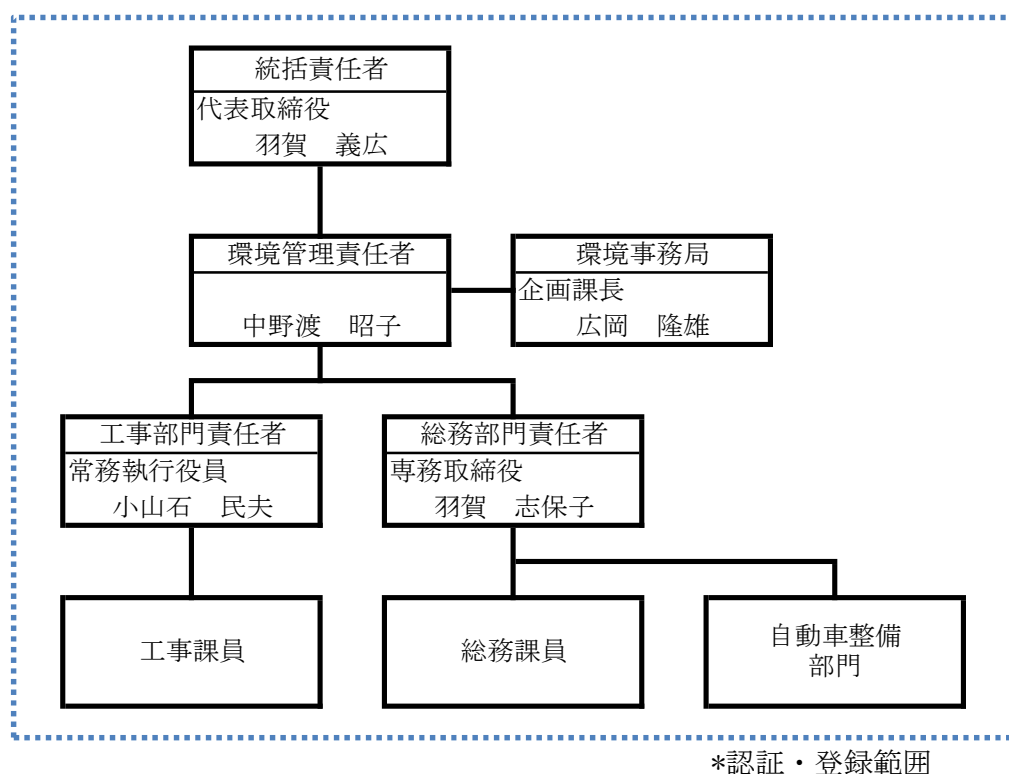
制定日：2009 年 7 月 15 日

改定日：2012 年 7 月 10 日

代表取締役

羽 賀 義 広

3. 実施体制



役割と責任・権限

役割	氏名	責任・権限	備考
統括責任者	代表取締役 羽賀 義広	①環境管理責任者を任命する。 ②環境方針の作成 ③環境管理責任者の報告を受けて全体の見直しを行う。 ④取組に対する経営資源を用意する。	
環境管理責任者	中野渡 昭子	①環境経営システムを構築し、運用・管理を行う。 ②環境目標の達成状況をまとめ、必要な場合は是正処置を行う。 ③社員教育を実施し、環境方針の周知を図る。 ④代表者への実績報告	
工事部門責任者	常務執行役員 小山石 民夫	①目標達成に向けた取組みの推進を図る。 ②データの収集と数値を記録し、事務局に提出する。 ③部門内目標値の把握と、課員への周知を図る。	
総務部門責任者	専務取締役 羽賀 志保子	①目標達成に向けた取組みの推進を図る。 ②データの収集と数値を記録し、事務局に提出する。 ③部門内目標値の把握と、課員への周知を図る。	
環境事務局	企画課長 広岡 隆雄	①管理責任者の業務を補佐する。 ②関連文書の記録・管理を行う。	
課員		①部門責任者からの周知を受け、目標達成に向けて活動する。	

4. 環境目標とその実績

(1) これまでの排出量の実績

当社の過去3年間の環境負荷の実績を ①電力使用量 ②化石燃料使用量 ③二酸化炭素排出量④一般廃棄物排出量 ⑤産業廃棄物排出量 ⑥排水量(水の使用量)に区分して調査し、結果を表1にまとめました。

①電力の使用量②化石燃料使用量、③二酸化炭素排出量、④一般廃棄物排出量、⑥排水量では目標は未達成でした。

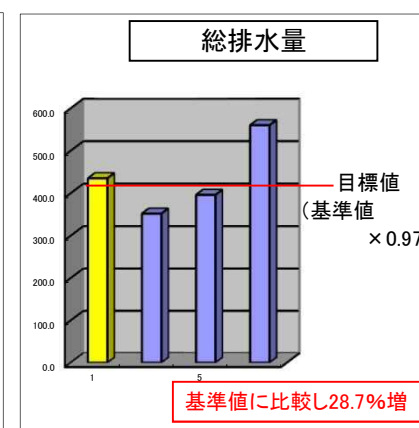
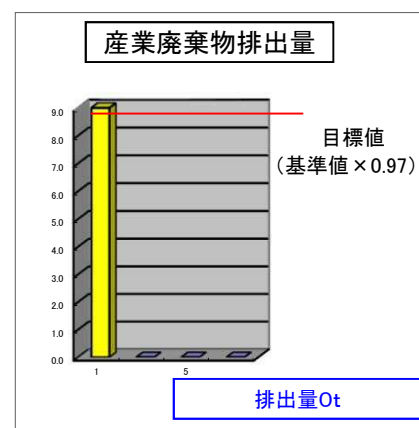
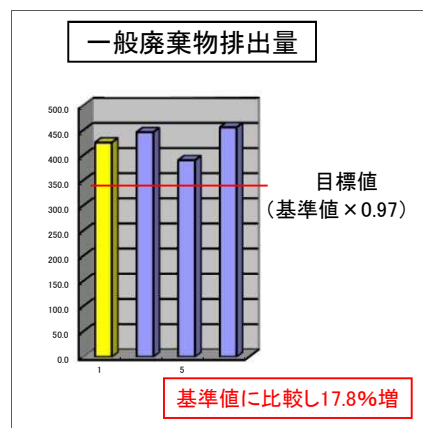
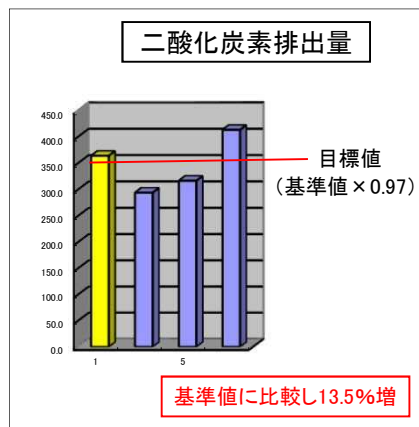
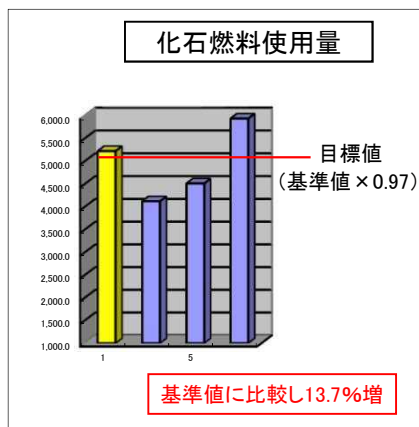
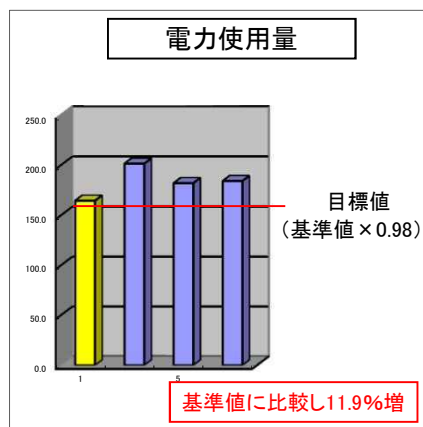
⑤産業廃棄物排出量の項目については基準値を下回り、本年度目標を達成することができました。

また、産業廃棄物は再生材・焼却処分とも、マニフェストにより適正に管理されています。

表1. 主な環境負荷等の実績

項目	単位	H24～H26 平均	平成27年度	平成28年度	平成29年度	基準に対する比率
① 電力使用量	$\times 10^{-3}$ MJ	164.8	201.7	182.3	184.4	111.9%
② 化石燃料使用量	$\times 10^{-3}$ MJ	5,223.8	4,124.1	4,514.3	5,938.3	113.7%
③ 二酸化炭素排出量	$\times 10^{-3}$ kg-CO ₂	363.8	293.9	316.5	413.0	113.5%
④ 一般廃棄物排出量	kg	426.0	446.6	390.8	456.3	107.1%
⑤ 産業廃棄物排出量	t	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
⑥ 総排水量	m ³	435.0	352.0	396.0	560.0	128.7%
⑦ グリーン購入 売上高	万円 百万円	12.8 492	6.9 473.0	29.7 624.0	9.1 722.7	71.1% 146.9%
自動車整備	台数	28.3	37.0	34.0	21.0	74.2%

電力排出係数=0.591 kg-CO₂/kwh を使用した。



(2) 基準年度に対する環境負荷の実績と評価

平成28年度の環境負荷量及び目標についての評価を行います。(表2)
 社内での二酸化炭素排出量削減活動を行ってまいりましたが、以下の項目について目標が未達成となつてしまいました。

- ・二酸化炭素排出量の合計は目標値に対し117.1%
- ・電力CO2排出量は目標値に対し108.7%
- ・化石燃料のCO2排出量は117.3%

次に廃棄物の削減活動では、一般廃棄物は目標値に対し、110.4%と目標が未達成でしたが、現場で発生する産業廃棄物は再資源化を行い目標を達成しています。

また、総排水量は目標値に対し、132.7%と目標が未達成でした。。

表2. 当該年度の環境負荷等の実績及び環境目標 (平成29年7月から平成30年6月まで)

項目	単 位	基準値 (3年平均) (2012~2014)	平成29年度 (29.7~30.6)			評 価	
			目 標	目標値	実績値		
CO2 の 削減	電力のCO2排出削減	kg-CO2	10,412.4	△2%	10,204.2	11,088.1	×
	化石燃料のCO2排出削減	kg-CO2	353,342.2	△3%	342,741.9	401,927.1	×
	二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	363,754.6	△3%	352,842.0	413,015.2	×
廃棄物 の削減	一般廃棄物の削減	kg	426.0	△3%	413.2	456.3	×
	再資源化率の増加	%	99.8	△3%	96.8	100.0	○
	産業廃棄物の削減	t	9.0	△3%	8.7	0.0	○
総排水量の削減 (節水)	m ³	435.0	△3%	422.0	560.0	×	

(3) 環境目標の設定

近年、売上高が上昇(基準年に対して1.47倍)して環境向上の排出量削減活動を行っても、現状との乖離が大きいため、平成30年度から基準年を見直し、平成29年度(平成29年7月1日~平成30年6月31日までの使用実績)を基準値とし、平成30年度の環境目標の目標値は、基準値×1%以上削減とします。

表3. 環境目標

項目	単 位	基準値 平成29年度の実績	目 標			
			平成30年度	平成31年度	平成32年度	
CO2 の 削減	電力の削減	k w h	18,761.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	灯油の削減	L	24,367.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	LPGの削減	kg	584.7	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	ガソリンの削減	L	23,456.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	軽油の削減	L	110,028.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	412,150.1	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
廃棄物 の削減	一般廃棄物の削減	kg	456.3	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	再資源化率の増加	%	100.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
	産業廃棄物の削減	t	0.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%
総排水量の削減 (節水)	m ³	560.0	△1%	基準値×△2%	基準値×△3%	

電力排出係数=0.545 k g -CO2/ k w h を使用する。

5. 環境活動計画

取組計画	取組内容	備考
電力の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼光の利用促進、スイッチの適正管理 ・ 夜間のPC・コピー機の電源OFFの徹底 ・ 空調の適温化の徹底 (冷房28℃、暖房20℃程度の徹底) ・ エアコン使用日数の削減 ・ NO残業DAYの推進 ・ クールビズの推進 ・ 低消費電力製品への切り替え 	本社、建設現場、自動車整備工場
軽油・ガソリン・灯油 使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリングストップの管理 ・ 暖気運転の時間短縮を図る ・ 車両点検整備の徹底 ・ エコカーの導入の検討 	本社、建設現場
一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミスコピー紙の再利用 ・ 電子文書管理の促進 ・ FAX利用の制限 ・ 資源ごみの分別回収の徹底 ・ 両面印刷の推進 	本社
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニフェストによる適正処理の確認 ・ 再生材の利用促進 ・ 仮設材の再利用の推進 ・ 発生材の減量化と再利用の推進 	建設現場、自動車整備工場
節水・排水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水運動の徹底 ・ 洗車時の流し洗いの短縮 ・ 雨水利用システムの検討 ・ 油水分離槽の適正管理 	建設現場、自動車整備工場

6. 環境活動の取組み結果の評価、次年度の取組内容

1) 環境活動の取組み結果の評価

平成29年7月から平成30年6月までの目標とその実績について、評価を行いました。

取組結果の評価については、次表に掲げるとおりです。

取 組 計 画	達 成 状 況		単 位	評 価
				次年度の取組内容
電力の削減 ・空調の適温化 ・NO残業DAYの推進 ・昼光の利用、スイッチの適正管理 ・PC、コピー機の電源OFF徹底 ・ケーブルの推進	基準年	10,412	kg-CO2	目標の108.7%と未達成
	目標	10,204		現場では目標を達成しましたが、事務所では未達成でした。 次年度は基準値を見直し改善活動を行い、目標達成に努力します。
	(98%)	(Δ2%)		
	実績	11,088		
	達成度	108.7		
軽油・ガソリン・灯油の使用量削減 ・アイドリングストップの促進 ・暖気運転の時間短縮	基準年	353,342	kg-CO2	目標の117.3%と未達成
	目標	342,742		事務所では暖房用燃料の使用量、現場では機械・車輛燃料、暖房用燃料の使用量増がみられます。 次年度は基準値を見直し改善活動を行い、目標達成に努力します。
	(98%)	(Δ3%)		
	実績	401,927		
	達成度	117.3		
一般廃棄物の削減 ・分別ボックスの設置 ・ミスコピー紙の裏使用 ・ブルタブ貯蓄の実施	基準年	426	k g	目標の110.4%と未達成
	目標	413		原因として席の配置換えを行った際に書類・カタログ等を整理・処分したことが考えられます。両面印刷やミスコピー用紙の再利用などは定着していますが、改善活動を行い、目標達成に努力します。
	(98%)	(Δ3%)		
	実績	456		
	達成度	110.4		
産業廃棄物の削減 ・マニフェストによる適正な処理 ・再生材の利用促進 ・仮設資機材の再使用促進	基準年	9,000	kg	産業廃棄物は全て再資源化して目標達成
	目標	8,730		産業廃棄物の再資源化、再生材の利用促進は、確実に行われています。今後も継続して減量化と再資源化率の向上に努めます。
	(98%)	(Δ3%)		
	実績	0		
	達成度	0		
節水・排水 ・洗車時の流し洗いの短縮 ・水を出しっぱなしにしない	基準年	435	m3	目標の132.7%と未達成
	目標	422		原因として社有車の増加により、水の使用量が増加したことが考えられます。 次年度は基準値を見直し改善活動を行い、目標達成に努力します。
	(98%)	(Δ3%)		
	実績	560		
	達成度	132.7		

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける廃棄物処理法・振動規制法・騒音規制法など、環境関連法規について遵守状況を確認したところ、違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反の指摘、住民等からの苦情・訴訟について確認したところ、問題はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

平成29年度の環境実績を振り返ると、事業量の増加により基準年に対する目標値を達成することが難しくなっていると考えます。平成30年度は基準値を見直しますが、環境改善活動は目標を意識して達成できるように推進いたします。

方策として、再利用可能な資材は、再利用がしやすいよう分別し整理・整頓する習慣をつけることや、不必要なアイドリングを減らすなど、社員一人ひとりの意識を定着させていきたいと思えます。

尚、年度の途中で判断基準を下回った場合は、取組の見直し、強化など是正策を講じます。

9. その他

社内教育

社長の環境活動教育（平成29年7月）



社員教育（平成30年1月）上半期実績の概要等



社員教育（平成30年5月）座学による教育



地域貢献及びボランティア活動

水辺のサポーター（平成30年4月）



地元小学校のニュース掲示の協賛



東小稲町内会の山車小屋（平成29年8月）



地元高校生のインターシップ受入



町内歩道の除雪ボランティア（平成29年12月～平成30年3月）

